

### 萩原市長

### 粟井地区行政視察

【十一月五日】

十月十六日の粟井地区・行政懇談会を受けて、日曜日にも  
かかわらず、粟井地区の視察に来られました。「自分の目で  
確かめておく」と言うことでした。要望事項が、少しでも実  
現に近づけば、粟井地区もどんどん良くなります。



最初に校舎の利活用について、次に小房では市道と能登香の宿泊施設、梶原では市道2カ所、小野では農家で農業経営についてと能登香の湯、道路脇の樹木伐採、粟井中では四つ角の改良、鷺巣では道路改良、瀬戸では鷺巣～溝口線の改良と道路脇の樹木の伐採、携帯電話の通信不能場所について確認して頂きました。今後、地元の議員を通して細部を詰めていく予定です。



### 粟井地区自主防災会

【十一月七日】

第2回粟井地区自主防災会が開催されました。今回は、国の補助事業で「多  
久見池」と「深谷池」の堤防決壊時のハ  
ザードマップ作成が主な課題でした。  
会の中で、山本雄一郎氏から、昭和18  
年の小房池の堤防決壊時の様子を聞き、  
当時のことに思いをはせながら、災害時  
の避難経路を検討しました。ハザードマ  
ップが出来上がると、次は各戸の避難経  
路と避難方法の検討が急務です。  
異常気象が頻発する近年、粟井地区  
で二度と多数の犠牲者を出さない防災  
意識の確立を目指しています。



### 粟井地区社会福祉協議会 認知症に関する研修会

【11月16日】

今年の「認知症に関する研修」は、「対応編」で接し  
方のポイントが中心でした。どなたかが言っておられ  
ました。「認知症は、誰もがとる道だと思っていた。」  
と。それほどまでに増えているのです。しかし、地域が  
理解し、地域で見守れば、良くはならないが悪くなる  
ことを遅らせる。認知症に一番気づくのは自分だそ  
うです。そんな時すぐに相談できる地域にしたいもの  
です。来年の研修は、家族の対応についてです。



### J A 粟井地区総代会

【十一月十七日】

J A 勝英本店より、内藤組合長、5人  
の部長と、2人の支店長が来られ、粟井  
地区の総代会がありました。内容は、  
■「JA 粟井店舗の役割が、ほぼ終焉し  
ている。平成30年度を目標に、廃止  
撤退の方向で整理することに理解して  
ほしい。」参加していた総代の意見は、  
一人を除いて他は全員強く存続を主張  
しました。今後は様々な可能性を協議  
していくことになりました。粟井地区に  
とっては商店が消える危機的課題で  
す。■「JA 理事の構成要件を満たす理  
事の選出について」作東地域は4人で、  
うち認定農業者又は実践的能力者3名  
以上、という内規、特に農協管理職OB  
中心の「実践的能力者の定義に意義が  
多く出ました。今後の理事会が閉鎖的になる恐れ大です。



### 能登香の湯 「AED研修会」

11月20日

能登香の湯の管理人を対象に「心肺蘇生法とAEDの講習会」がありました。毎年行っていることです。①心肺蘇生法 ②避難訓練と消防への連絡訓練、③消火訓練は、必須条件です。真剣に訓練しました。



### 「めざそうよ きれいと言われる この粟井」

11月5日から

美作市の「花いっぱい運動」に合わせて、粟井地区も学校、作東老人福祉センター、そして各区の花壇に、パンジーとピオラを中心に花を植えました。この冬を美しく彩ります。この時期、鹿対策が必要です。



【編集後記】 昨年発足した「粟井地区工ヨマの会」、今年約120kgの総収  
量でした。半分はすでに予約済みです。また、今年ハバネロパウダーも完成  
し、コンニャク芋の販路も出来ました。今後は粟井地区の風土、土質にあつた  
作物栽培で粟井地区を元気にします。「もち麦」の栽培にも取り組みます。正  
月餅の予約も始まります。豆餅や紫芋大福、工ヨマもち麦入りの餅も商品化  
の予定です。地道な商品開発で粟井地区村創りの会も元気に近づいてきました。  
いろいろな個人・団体・組織・市と提携して、一歩ずつ確実に前進しています。